

- (2) 長期的な展望を持った運動を進めなければならないと思う。短期日のうちにかたずくものだとはとても思われない。そのために教員、教育委員会、そして水族館、動物園など博物館相当施設、学者、文化人などの幅広い声としてゆく中で、ジャーナリズムがとり上げ政界に働きかけることが必要であると思われる。
- (3) 博物館設立準備会をつくる必要があると思う。この会には博物館の設立を望む人はだれでも入ることができるようにすることが望ましい。地学関係者の参加も必要である。
- (4) 県にどれだけの宝がうもれているのか調べる必要があると思う。これは他人のふところ具合をさぐるようで

妙なものだが、作れというからには、入れるものがなくてはこまる。

- (5) 他府県の経験を聞き、他府県の博物館と連絡をとる必要がある。現に神奈川、愛媛の博物館は“作れ作れ”という声が大きくなって作られた博物館である。また、博物館に関する文献、雑誌はおびただしく出版されているので、これらをもとに勉強する必要があるとともに、博物館法という法律があるので、これを研究する必要があると思う。

- (6) 一番困るのは金の工面であるが、いいアイデアを教えてほしい。 以上

昭和42年度野外観察指導研修会記録

8月17日午後……氷上郡氷上町香良 滝道

夜………同上成松 かどのや旅館にてスライド及び講話

8月18日全日……同上篠ヶ峯 (827m) 登山

夜………多紀郡篠山町 国民宿舎

8月19日午前……同丹南町松尾山

講師として京大理学部村田源先生、氷上町横田の細見末男氏(氷上郡植物目録著者、大阪教育大附高山本義丸氏(氷上郡昆虫目録著者)を迎えて上記の日程で実施した。本部より室井先生が参加され、郡外より20数名、郡内および多紀郡から20名余り、盛会であった。

第1日午後は、氷上郡では比較的シダ類の多い涼しい香良の滝道をえらんだ。既にここは京大岩槻邦男氏のシダ目録のつくられているところで約80種、その主なものは参加された方々は採集されたようであった。夜は夕食後宿舎において山本氏の氷上郡の昆虫相について、細見氏の同植物相について、それぞれプリントに基づいて講

話。最後に約1時間村田先生のインドのブータン採集行のスライドによるお話を承る。カルカッタから北上(ジープによる)途上の植物、森林地に入っているいろいろの蘭の見事さ、高地に入っている豊富なシクナゲ類など美しいスライドをもとに興深く拝聴した。

第2日目、バスで篠ヶ峯山麓へ。午前中は主として谷を、正午頂上のササ原で昼食、午後尾根を下る。ホンシクナゲ、ヒカゲツツジの群落はかなり広く、栽培に持ち帰られる方もかなりあった。午後3時半バスで篠山へ。ちょうど18日は篠山町ではデカンショ祭。夕食後見物に出られる方も多かった。

第3日目、午前中だけ篠山口駅に近い松尾山の谷を見て戴いた。

心配していた夕立もなく、暑い最中の研修会であったが、事故もなく終えることが出来た。なお、採集記録の詳細は柏高生物班々誌NATURAに載せる予定である。

(柏原高校生物教室内 氷上支部)